1 古文入門

単元のねらい

◆説話のおもしろさを味わう。
◆文語のきまりを理解し、古文に親しむ。
◆歴史的仮名遣いの読み方を理解し、古文を音読する。

・登場人物が何をどうしているのか、話の筋を押さえさせ、話のおもしろさ、読みどころなどを考えさせることで、古典の世界の奥行きを感じ取らせる。
・古典の世界に親しむために、歴史的仮名遣い、古今異義語や品詞、用言の活用と活用形など、文語のきまりの基本について理解する。
・古文学習の基本として、まず何度も音読させ、歴史的仮名遣いに習熟させ、しっかり読めるようにする。

本単元は「精選　言語文化」古文編の第一単元であり、入門の教材を配置し、古典の世界への導入を図ることをねらいとしている。

単元の構成

「宇治拾遺物語」より「児のそら寝」「絵仏師良秀」、「十訓抄」より「大江山」、計三教材を取り上げた。いずれも平易な文章と具体的な内容をもった説話である。「児のそら寝」では、軽妙な語り口で語られる児と僧の心情を読み取り、話のおもしろさを味わう。「絵仏師良秀」では、火事に遭った良秀の奇異に思える言動から、良秀の芸術に対する考え方を読み取らせ、話し合わせる。「大江山」では、小式部内侍と定頼の発言にどのような気持ちが込められているかを読み取りながら、和歌の表現技法について学習を進める。

「古文を読むために１」では、歴史的仮名遣い、古語と現代語、五十音図を、「同２」では、文・文節・単語、品詞、古文の特徴、古語辞典の引き方を、「同３」では、活用・活用形、動詞、形容詞、形容動詞、係り結びについて説明している。古典の世界に親しむために、

古典を読むために必要な文語のきまりについて学習できる。

「単元の言語活動１　声に出して古文を読む」では、「古文を読むために１」を参考にしながら、古文を読むときのルールを学び、本単元に採録した三教材を繰り返し音読し、古文を正確に読める力を養う。